

# R REPORT

大阪・関西万博、開幕！

## 空飛ぶクルマとワクワクの未来

### 万博とJAL

20年ぶりの日本開催となる国際博覧会「大阪・関西万博」が4月からいよいよ開幕します。

「未来社会の実験場」をコンセプトに魅力的な展示が立ち並ぶ中に、JALがソニーPCL社と組んで展示する「空飛ぶクルマ」のイメージ（没入体験型）シアター『そらクルーズ』もあります。空飛ぶクルマはeVTOL（電動垂直離着陸機）とも呼ばれ、環境にやさしく機動性に優れた新たな交通輸送手段として、世界各地で研究・開発が進められています。

JALは航空事業で培ったノウハウを生かして、この次世代エアモビリティの事業化にいち早く着手。2024年6月には住友商事と共に「株式会社Soracle」を立ち上げました。

「日本におけるeVTOLの運航事業を実現し、新しい空の移動価値を創出していきたいです」と語

るのは、JALから出向しSoracleの広報を務める小川恵莉。万博会期中に米国アーチャー・アビエーション社が開発するeVTOLをデモンストレーションすべく、準備を進めています。

一方、万博の『そらクルーズ』を準備するのはJALイノベーション本部の池田恵実。リアルな映像や立体音響、振動により没入感を高めるハプティクス（触覚提示技術）といった、ソニーPCLによる「イマーシブソリューション」を導入し、「まるで空飛ぶクルマに搭乗しているような臨場感が味わえます。子どもから大人まで楽しめるシアターですので、ぜひお



万博企画を担うイノベーション本部のメンバー。左から馬場ひかり、池田、小川、後宮（うしろ）真悠子。

越しください」と意気込みます。

### ワクワクの未来を 空飛ぶクルマと共に

JALグループと社会のこれからの関わり方を、自由な発想で描いた『JAL FUTURE MAP』（5ページ）には、空飛ぶクルマの姿も描かれています。グループが目指す「移動を通じた関係・つながりの創造」による社会的・経済的価値の創出について、「特に未来を担う若い世代が空飛ぶクルマでワクワクするような、つながる未来世界を示したい」と目を輝かせる池田。

JALグループはこれからも、「移動」を通じた「社会のつながり」を創造し、人や物が自由に行き交う、心はずむ社会・未来を目指してまいります。

S

3



©Active Motion Inc.

2



©Expo 2025



SILVER PARTNER



1.万博メイン会場内、「空飛ぶクルマステーション」に展示予定の『Sora Cruise（そらクルーズ） by Japan Airlines』のイメージ。2.リング状の大屋根が囲む万博会場。3.万博で披露予定のeVTOL「Midnight」。